



2010 年度（2011.4 就職）

機械専攻群，機械システム学コース，宇宙基礎コース就職先一覧

2010/11/11

松野文俊（機械理工学専攻長・就職担当）

今年の就職も非常に厳しいと予測されたが，京機諸氏をはじめとする皆様のおかげで，無事ほぼ終了した．本稿では，昨年度の結果報告も踏まえつつ，今年度の状況と就職担当としての感想を述べる．

就職先一覧のとおり，今年度の学校推薦の比率は 58% で，2007 年の 50%，2008 年の 56%，2009 年の 61% と微増の傾向にある．また，表 2 に過去 5 年間の特に就職の多い企業の人数の推移を示した．特徴をまとめると以下のとおり．

1) 自動車に関しては，数年前から日産，本田，トヨタが減少した．一方，ここ数年はデンソーが増えて安定している．

平成22年度機械系進路一覧（11月時点）

	就職先企業一覧	人数(推薦)	学部	修士
1	三菱重工業(株)	7(7)		7
2	川崎重工業(株)	6(6)	1	5
3	(株)島津製作所	6(2)		6
4	トヨタ自動車(株)	4(4)		4
5	三菱電機(株)	4(4)		4
6	(株)デンソー	4(2)		4
7	(株)小松製作所	3(3)		3
8	新日本製鐵(株)	3(3)		3
9	パナソニック(株)	3(3)		3
10	旭硝子(株)	3		3
11	オリンパス(株)	3		3
12	sysmex(株)	3		3
13	ソニー(株)	3		3
14	(株)クボタ	2(2)		2
15	JFEスチール(株)	2(2)		2
16	住友金属工業(株)	2(2)		2
17	(株)富士通	2(1)		2
18	(株)森精機製作所	2(1)		2
19	(株)野村総合研究所	2		2
20	任天堂(株)	2		2
21	西日本旅客鉄道(株)	2		2
22	(株)NTTデータ	1(1)		1
23	オムロン(株)	1(1)		1
24	関西電力(株)	1(1)		1
25	きんでん	1(1)		1
26	(株)神戸製鋼所	1(1)		1
27	住友金属鉱山(株)	1(1)		1
28	住友精密工業(株)	1(1)		1
29	住友電気工業(株)	1(1)		1

- 2) 重工に関しては、ここ数年はほぼ同じ数で、今年は増加した。
- 3) 電気は、ここ数年弱電と重電を合わせた合計は比較的一定であったが、今年は全体的に減少した。関西に集中する傾向は変わっていない。
- 4) 鉄鋼などの素材関係は、数年前から復活している。
- 5) 島津製作所、オリンパスなどの医療関係に人気が高まっている。

学校推薦についての、過去5年間の1次推薦(4月の時点)に対する不合格者も集計をした。不合格者については、その学生の質の問題もあると考え、それぞれ最終的にどこに就職したかも併せて調べた。募集人員は多いが毎年コンスタントに2名程度不合格を出す会社が1社、昨年度3名推薦してすべて不合格にした会社が1社あり、昨年度機械専攻群教授会として抗議を申し入れた。

過去5年間で複数の不合格者を出しているのは10社である。また、過去5年間で1名不合格者を出した会社は14社である。今年は1次推薦で9名の不合格者が出た。

	就職先企業一覧	人数(推薦)	学部	修士
30	中部電力(株)	1(1)		1
31	(株)東芝	1(1)		1
32	日本ガイシ(株)	1(1)		1
33	(株)日立製作所	1(1)		1
34	日産自動車(株)	1(1)		1
35	ブラザー工業(株)	1(1)		1
36	ヤンマー(株)	1(1)		1
37	ナブテスコ(株)	1(1)	1	
38	富士通テン(株)	1(1)	1	
39	ヤマハ発動機(株)	1(1)	1	
40	JAXA	1		1
41	科学警察研究所	1		1
42	カネカ(株)	1		1
43	国土交通省	1		1
44	ザインエレクトロニクス(株)	1		1
45	シュルンベルジュ(株)	1		1
46	(株)タダノ	1		1
47	TIS(株)	1		1
48	中国電力(株)	1		1
49	デロイトトーマツ コンサルティング(株)	1		1
50	東海旅客鉄道(株)	1		1
51	(株)トクヤマ	1		1
52	日本技術貿易(株)	1		1
53	パナソニック電工(株)	1		1
54	阪急電鉄(株)	1		1
55	経済産業省特許庁	1	1	
56	レンゴー(株)	1	1	
合計		103(60)	6	97
博士課程進学予定者等		6		

学校推薦と自由応募の両方を扱っている会社は、場合によっては学生に混乱を招いている。学校推薦は1学生1社すなわち「専願」で他社に行かないことを保証しており、全ての自由応募の活動も止めることを前提としている。学校推薦の時期は自由応募に比べて遅いため、採否の決定も遅くなり万が一不合格になると学生に大きな不利益が生じる。そのため、扱いは自由応募とは異なるべきである。しかし、学校推薦は自由応募の1次審査がないのみで最終合格基準には違いがない、あるいは自由応募で内々定を出しておきながら学生を通じて推薦書を要求するなど

		2010	2009	2008	2007	2006	計
自動車	トヨタ	4	4	9	7	11	35
	本田	0	1	1	3	4	9
	日産	1	0	1	1	4	7
自動車部品	デンソー	4	4	4	1	2	15
重工	三菱重工	7	7	8	5	7	34
	川崎重工	6	3	2	3	2	16
電機	パナソニック	3	2	9	3	1	18
	三菱電機	4	5	1	3	5	18
	パナソニック電工	1	5	0	2	1	9
	日立製作所	1	4	1	1	1	8
計測	島津製作所	6	4	1	2	0	13
医療	オリンパス	3	3	1	0	1	8
鉄鋼・材料		8	6	10	10	7	41
電力		3	6	3	3	2	17
JR		3	3	4	3	2	15
国家公務員		3	3	2	2	2	12

表2 就職先推移

<=新日鐵, 住金, JFE
神鋼, 東レ, 旭化成

<=経産省, 国交省
特許庁ほか

問題のある扱いが見受けられた。また、学校推薦であってもジョブマッチングと称して事前に実質的な採用試験を行っている会社があり、学校推薦決定日とジョブマッチング合否結果判明時期が重なった場合には大きな混乱を招いた。

OBの方々からは京大の機械系の学生を是非採用したいとおっしゃっていただけているが、同時に採用担当者からはT大に比べて採用実績がそれほど芳しくないとのこと指摘をいただいている。就職活動時期の学部3回生(B3)後半はまだ卒研配属にもなっておらず、修士課程1回生(M1)の後半は講義の単位を取得している最中で、まだ研究テーマを暖めている時期で研究活動が本格化していない段階である。

本学は「研究を通じた教育」を主体としており、このような段階でどのような採用面接をして学生の研究能力や資質を推し量るのか、採用側の問題も大きいと考える。また、就職活動が早期化長期化する傾向にあり、研究教育活動に支障をきたしているのではないかと危惧している。若いときにじっくり時間をかけて、しっかりと考える力を養ってもらいたいと思っている。大学側も企業側も何らか考えないと、歯止めがかからないように感じている。

京大生といっても、最低限の準備は必要である。丸腰で行っては必ず痛い目にあう。昨年度からの試みであるが、今年度は11月24日に、博士進学の手引きと今年度の就職状況の解説のため、「進路指導説明会」を開催した。M1およびB3を対象として、博士進学について、航空宇宙工学専攻の江利口浩二准教授から「博士学位をとる意義：企業での勤務経験から」、機械理工学専攻の巽和也准教授から「博士課程に進学する意義」について話題提供していただき、マイクロエンジニアリング専攻長琵琶志朗教授より博士課程前後期(博士・修士)連携教育プログラムを

中心に大学院入試に関する説明があった。昨年度までの数年間の博士課程進学者の就職について情報を集めた結果、着実に就職を決めていることがわかった。本学修士課程から進学した博士学生の就職については、大半が大学や公的研究機関における職を得ており、全く心配のない結果が出ている。また、今年度面談させていただいたほとんどの会社の採用担当者の方々から博士の学生も積極的に採用するとのこと意見をいただいている点も心強い。

進路指導説明会では、小生から修士および学部の今年度の就職データに基づき、会社別の就職状況、過去5年間の不合格情報、公務員試験の説明と、就職担当としての感想を述べた。自分が就職を希望する会社で自身が働くイメージを創るよう指導した。これにより、インターネットや就職セミナーなどで得た上っ面の情報だけでなく、自分がどの部署でどんな仕事をしてどのように会社に貢献できるのかを考えるきっかけとなり、深く会社を考察し自分自身を見つめ直すことができるようになると考えている。また、近視眼的な非常に局所的な考え方やものの見方しかできず、将来を見据えて物事を判断するのはなかなか困難のようである。20年先とは言わないがもう少し将来の社会や経済の状況、その中でその会社がどうなっていくかも考えてみるようにもアドバイスした。また、身近にある製品のメーカーやテレビで宣伝がなされている会社など以外は全く存在を知らない場合が多く、産業界や会社の仕組みなどが全く分かっていないように感じられた。結局、自分でもっと深く勉強し良く考え、自己のポテンシャルを高め、しっかりとした動機を持つことが重要である。

学校推薦で不採用になってきた学生の多くは上述した人間としての実力の欠如が原因である。特に、コミュニケーション能力の不足や熱意・動機の希薄さという理由で不合格となる場合が多かった。ブランドのみを追っている（例えば、同じ学生がトヨタ、JR、SONYを志望する）、自分がなぜ工学部になぜ機械系に来たのかを説明できない、機械の中で何を重点に勉強してきたか説明できない、研究の内容を簡潔に分かりやすく説明できない、仕事の中身をわかっていない、自分が会社で何ができそうなのか言えない、産業界・社会の仕組みがわかっていない、などが具体的な症状であり、昨年度と変わっていない。

結局、学生がしっかりと広い意味での勉強をするとともに、これまでの勉強の過程や自分の研究テーマについてもっと深く考察し、はっきりとした動機を持ち、人間として自己を磨き、自信を持って就職に立ち向かってくれば、自ずと結果が出るのではと思う。また、各研究室でも大所高所から学生の「人間としての総合力」について指導をしていただければと希望する。さらに、京機会の強力なバックアップは非常に貴重であり、今後とも宜しくご指導いただきたくお願い申し上げる。

シルクロードを旅して

(その2)

1966年 機械科修士卒 平 忠明



高昌故城（こうしょうこじょう）

トルファン市街から東に45km、火焰山南麓にあるカラホージョとも呼ばれ、5世紀から7世紀にかけて漢人により独立の仏教王国として建てられた高昌国の都城で、東西1,600m、南北1,500m、周囲5km余の方形の外城は、高さ11.5mに及ぶ城壁もよく保存され、シルクロードに残る最大規模の遺跡として知られる。紀元前1世紀の漢代から13世紀にモンゴル軍により滅ぼされるまでの間、新疆における政治・経済・文化の中心地の一つであった。ほぼ正方形で、王城・内城・外城と3部分に分かれ、王城が外城の最北部に位置し、内城が外城の中心部にある。建物は日乾煉瓦（ひぼしれんが）によって築かれ、アーチ型の出入口が多い。日乾煉瓦は畑の容



土や肥料として使われたため、落城のあと大部分は持ち去られて崩れている。玄奘（げんじょう）がインドへの求法（ぐほう）の旅の途中に約1ヵ月滞在した寺院跡は南西の隅にある。高昌国王は旅費や従者を与えるなど玄奘に全面的な支援を行い、そのお陰で玄奘は目的を達する。インドからの帰途、高昌国に立ち寄ろうとした玄奘は、高昌国が侵略を受けて既に滅んでしまったことを知る。玄奘三蔵(600?-664) 漢代には高昌壁が築かれたという記録がある5世紀蘭州出身の漢人麴氏（きくし）一族によって麴氏高昌国（きくし・こうしょうこく）が成立し、以後640年に唐の太宗（たいそう）によって滅ぼされるまで、約140年間存続した。9世紀末、唐が全面的に撤退した後、10世紀にはウイグル人の「高昌大王府」が置かれた。高昌故城はその後300年間ウイグル人の拠点として栄えたが、13世紀にチンギス・ハンの遠征軍に襲撃され、廃墟となってしまった。

火焰山： 天山山脈付近にある丘陵。タクラマカン砂漠タリム盆地の北部、トルファン市の東部に位置する。砂岩が侵食してできた赤い地肌には、炎を思わせる模様ができています。平均標高は500メートルであり、比較的平らな山頂が、長さ98キロメートル、幅9キロメートルにわたって横たわっている。途中の何箇所かが川で切断されている。この特徴的な地形は、火山活動による溶岩が、長年にわたってガリ侵食などで削られてできたものである。平均気温が高いことで知られ、夏の気温が50℃を超えることも頻繁！ 交易商人たちは、難所タクラマカン砂漠の北端を、シルクロード天山南路として利用。その途中のオアシスは、高昌のように貿易中継地として栄えた。交易商人達に仏教の僧侶も同行し、その路上に仏教寺院を作った。火焰山の中腹には、そのような寺院の一つ、ベゼクリク千佛洞(Bezeklik Thousand Buddha Caves) がある。5世紀から9世紀にわたって増築が進められたもので、仏教施設がある70の洞窟の集合体である。多数の壁画や仏像が残されている。

「火焰山、天山山脈、崑崙山脈、カラコルム」

火焰山は起点のトルファンを西へ車で走ると、まもなく天山山脈の東端に見えてくる、文字どうりの赤肌の約100 kmにわたる連山で、高さは差ほどでもない。



天山山脈は東西2,500 kmに及び、最高峰は7,400 mの氷河に覆われた山脈である。天山とはウイグル語で文字どうり"天"の山を意味し、稀有壮大である。

崑崙山脈は新疆ウイグル自治区とチベット自治区の境界

くまでの、東西3,000 kmに及ぶ山脈で最西端はパミール高原に達している。標高6,000 m以上の高山が200 峰以上連なっている。

カラコルムは、この崑崙山脈の一部の山塊群で、その西端パキスタンとの国境近くに、京大山岳部が初登頂に成功した最高峰8,611 mのK-2があるが、今回の走破した道路からはさらに奥に200 km以上入らないと、残念ながら姿を見せてくれなかった。



(つづく)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。
宜しくお願い致します。

米国民主党の中間選挙での大敗について

矢野義昭（1972卒 あいおい損保保険顧問）

今回の民主党大敗の最大の要因は、好転しない経済情勢とりわけ高止まりした失業率にあるといわれています。それはそのとおりですが、もっと奥深いところでアメリカ政治の流れが変わりつつあることが示唆されています。

ペイリン前共和党副大統領候補が主導する「ティーパーティー」のミニ集会が、共和党の集票マシンとして活躍したとのことですが、米国建国の理念に還れとの、保守的主張に国民の多くが賛同する方向に流れは変わってきています。その背景には、経済問題だけではなく、オバマ政権下での融和的対外政策で傷つけられた米国の誇りを取り戻したいとする、米国民の潜在的願望があるとみられます。

オバマ大統領が就任後真っ先に取り組んだのはグアンタナモ基地の「捕虜虐待問題」ですが、正当な訊問すら制約されると、当時から情報関係者には不評でした。対露外交ではチェコ、ポーランドへのミサイル防衛網配備で一方的に譲歩しながら、ロシアのイラン原子力開発支援では協力を得られませんでした。中国に対する元高への為替誘導も拒否され、北朝鮮とイランの核とミサイル開発も阻止できず、「核なき世界」という理念は核拡散の前に色あせ、臨界前核実験の実施で説得力を失っています。その上、アフガンでは期限を切って撤退を表明したものの、損害は多発し平定の見通しは立っていません。安全保障政策面でも失敗を重ねてきたのです。これら内政外交面の行き詰まり感から来る米国民のフラストレーションが今回爆発したと見るべきでしょう。しかし米国の国力総体が低下しつつあり、保守強硬派が次の選挙で勝利し、対外的に再び強硬策に出たとしても、国力の限界にまた突き当たる可能性が高いと思われます。

今後米国は覇権の縮小過程に入り、その対外的コミットメントも国際経済に占める比重も低落していく可能性が高いでしょう。米国頼みの時代は、経済でも安全保障でも終わりつつあります。そのことを日本は覚悟し、自立化への道を目指すべきときに来ています。

京機会九州支部 秋の行事報告

前支部長・顧問 藤川 卓爾 (S42卒)

平成22年11月6日(土)に、北九州市にて京機会九州支部のH22年度秋の行事を開催しました。家族1人を含めて21人が参加しました。12時30分にJR朽網駅前に集合し、先ず、TOTO(株)の小倉第二工場を見学しました。入船佳津一事務局長(S60)の司会で、広瀬工場長から工場概要の説明を受けました。TOTOでは「環境ビジョン2017」として、2017年までに家庭の水周りから出るCO2を50%以上削減する目標に向かって進んでおり、工場はゼロエミッションを目指して、埋立ゴミ0、海への排水の法基準を上回る浄化を達成しています。続いて2班に分かれて、水栓金具の鋳造、機械加工、研磨、メッキ、組立工程の見学をしました。その後、開発担当の松井 英之氏(H1)より、シャワーの手元スイッチ、キッチン足元スイッチなどでこまめに節水すること、空気を混入させてタップリ感を持たせること、配管中の水車で発電し、コンデンサーで蓄電することなど、現在最も重視されている水栓装置の節水・節電性向上のプレゼンテーションを受けました。



次に総会に移り、藤川 卓爾支部長(S42)の挨拶、久保 愛三会長(S41)の来賓挨拶、藤川支部長の九州支部事務報告に続いて、新役員選出を行いました。相馬 和夫氏(S50)が新支部長に選出されました。

場所を移して小倉場内の松本 清張記念館を見学しました。松本 清張はM42小倉に生まれ、S28まで北九州で新聞社に勤務、その後上京して作家活動に専念、数々の作品を世に出してH4に82歳で逝去しました。記念館には東京杉並区の「仕事の城」が再元され、約3万冊の蔵書は清張の創作の源を感じさせました。

再び場所を松柏園ホテルに移し、懇親会を行いました。出席者中最年長の高橋 忠祐氏(S32)のご発声による乾杯の後、出席者全員から自己紹介や近況報告がありました。平成年代の卒業生が約1/3の6人出席して若い力が満ちていました。大熊



隆吉氏(S35)の中締めで一区切りをつけ、続いてマイウェイにて二次会を行い「琵琶湖周航の歌」を熱唱しました。

翌日の下関海響マラソンでは千々木 亨氏(S54)が見事完走しました。TOTOからは京都大学の他学科の同窓生2名が選手として出場し、入船事務局長、東 洋司氏(S62)、筒井 治雄氏(S63)、松井氏が京機会チームの応援団として参加しました。

S42年組同期会の報告(H22秋)

報告者 S42学年評議員 藤川 卓爾

平成22年11月5日(金)、東京北品川の「金時」で半年振りに京機会S42年組の集いを開催しました。元関東支部長の平尾 隆氏が3年間のブラジル勤務から帰国しました。関東在住者を中心に仙台からの参加者もあり11名が参加しました。

出席者：

安藤 研治、清野 慧、長崎 啓(幹事)、樫村 勝、林 正広、平尾 隆、藤川 卓爾、前野 幹彦、元木 敏雄、若園 修、渡邊 光寛



野次馬話 第11話 「改正反対」

S43卒 遠藤照男

朝日新聞や自民党以外の政党が、よく政府や自民党のやることに楯突いている。政府や自民党が、〇〇改正法案を提案したとしよう。「改正」は政府や自民党の立場から見て「改正」であって、朝日新聞その他の立場からは「改悪」以外の何物でもないのだが、「改正反対」と論陣を張る。社民党の懲罰代議士・辻本清美も「多くの平和憲法改正反対の声を期待します。」とやっていた。

お分かりですね。「正しい」と自ら使い、それに「反対」であると主張する結果になっている。客観的、中立的な視点で述べるのなら「改訂」なのだが。しかし、共産党は徹底して「改悪反対」と言っている。絶対の悪か否かは別にして、彼の党の正義から見ると悪なのだから、筋が通った用い方である。

INFO

● 詳細はPDF版でご覧下さい。

国家戦略等の話題

1. 「知的資産創造」 2010年8月号 野村総合研究所

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/index.html>

改めて求められるダイバーシティの推進

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100801.pdf>

特集：今求められる日本の長期国家戦略、なぜ今、国家戦略が必要なのか

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100802.pdf>

長期展望から見た日本の経済発展戦略の方向性

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100803.pdf>

2030年に向けた日本の経済発展戦略

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100804.pdf>

NAVIGATION & SOLUTION

日本企業によるクロスボーダー（海外企業）M&A 推進に向けて

－米国企業買収を例として－

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100805.pdf>

IFRS導入で見直しが迫られる経営戦略

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100806.pdf>

ハーフエコノミー時代の法人営業改革 ソリューション営業の成功のポイント

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100807.pdf>

CHINA FINANCIAL OUTLOOK

「ゲームのルール」の変革を目指す中国リテール証券会社

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100808.pdf>

NRI NEWS

クラウドサービスをセキュアに利用するには

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100809.pdf>NRI

FORUM & SEMINAR

今後、中国の資本市場はどのような発展経路をたどるのか

<http://www.nri.co.jp/opinion/chitekishisan/2010/pdf/cs20100810.pdf>

2. 規制・制度改革の経済効果 政策課題分析シリーズ（第6回）

－規制・制度改革の利用者メリットはどの程度あったか－ 内閣府（H22.10.5）

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-0.pdf>

1. 表紙・目次 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-1.pdf>

2. 要旨 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-2.pdf>

3. 本文1 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-3.pdf>

4. 本文2 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-4.pdf>

5. 補論 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-5.pdf>

6. 参考文献・参考1 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-6.pdf>

7. 参考2 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-7.pdf>

8. 参考3 <http://www5.cao.go.jp/keizai3/2010/10seisakukadai06-8.pdf>

3. 日本企業の競争力低下要因を探る みずほ総合研究所 2010年9月29日

～研究開発の視点からみた問題と課題～

<http://www.mizuho-ri.co.jp/research/economics/pdf/report/report10-0929.pdf>

4. 国内投資促進円卓会議 民間委員の緊急提言について

経済産業政策局 産業構造課 平成22年10月4日(月)

<http://www.meti.go.jp/press/20101004002/20101004002.html>

本件の概要

本日、米倉日本経済団体連合会会長より、国内投資促進円卓会議の民間委員の緊急提言が同会議の議長である大畠経済産業大臣に提出されました。経済産業省としては、同会議の事務局として、当該提言が今後の経済対策に反映されるよう、関係省庁に働きかけていきます。

資料 国内投資促進円卓会議民間委員の緊急提言について

<http://www.meti.go.jp/press/20101004002/20101004002-1.pdf>

経済対策に関する緊急提言

<http://www.meti.go.jp/press/20101004002/20101004002-2.pdf>

5. トップ証券アナリストが説く日本の産業と環境鉄鋼・非鉄、エネルギー、化学、自動車、紙パ・ガラス、太陽電池・半導体、家電、不動産、建設、運輸、IT>

地球環境戦略研究機関 (IGES) 気候変動グループ 石鍋渚

<http://enviroscope.iges.or.jp/modules/envirolib/view.php?docid=2925>

(本文)

http://enviroscope.iges.or.jp/modules/envirolib/upload/2925/attach/iges_ishinabe_summary_201010.pdf

本ヒアリング・サマリーは、鉄鋼・非鉄、エネルギー、化学、自動車、紙パ・ガラス、太陽電池・半導体、家電・AV機器、不動産、建設、運輸、ITサービス・ソフトウェアの、合計16業種を担当する12名のトップもしくはトップ・クラスの証券アナリストに、環境省、国立環境研究所、地球環境戦略研究機関の官僚及び研究者がヒアリングし、その内容を纏めたものである。質問の趣旨は主に、①日本の産業の現状や中長期展望、②日本企業の国際競争力、価格転嫁や炭素リーケージの可能性、③環境経営の浸透状況、CO2の見える化・各社の温暖化への取り組みや、またそれら企業行動に対する投資家の反応、そして、④環境税、排出量取引制度、温暖化対策基本法や最近の日銀の取組等、日本の温暖化対策やグリーン産業創出に係る政策・施策についてである。本ヒアリング・サマリーは、幅広い購読者を意識し書かれた。これが少しでも多くの人に届き、今後の政治、経済、気候変動問題への対応策を議論する上での参考になれば幸いである。

6. 都市経済の自立と持続可能性を考える

RIETI 中村 良平

<http://www.rieti.go.jp/jp/papers/contribution/nakamura/03.html>

1. 都市政策としての都市経済

都市を対象に研究する学問分野は意外に数多くある。具体的に言えば、都市社会学、都市地理学、都市行政学、都市工学、都市計画学、そして都市経済学などである。それらは、都市の現象を社会的に考察したり、空間的に立地現象をとらえたり、また制度としての都市のありかたを検討するものである。しかし、それらはおしなべて都市政策へとつながるものでなければな

らない。最終的な到達点は都市政策であり、そこへいくための様々なアプローチなのである。

7. 2011年度予算の展望～形骸化する中期財政フレーム

ニッセイ基礎研

2010/10/08

http://www.nli-research.co.jp/report/econo_letter/2010/we101008.html

全文 http://www.nli-research.co.jp/report/econo_letter/2010/we101008.pdf

要 旨

1. 2011年度の一般会計における概算要求総額は96兆7465億円と、過去最大となった。(1) 国債残高の増加を受けて国債の利払い費や償還費が増加したこと、(2) 年金・医療等に係る経費の自然増分(1兆2500億円)(3) 特別枠要望額が特別枠要望基礎枠を大きく上回ったことなどが概算要求額を押し上げた。
2. 2011年度予算において、概算要求や予算編成は中期財政フレームに基づいて行われており、基礎的財政収支対象経費を71兆円以下に抑制すること、新規国債発行額を前年度水準(44.3兆円)以下に抑制することが定められている。この枠組みを遵守することは、財政再建に対する政府の本気度を示す意味で重要であり、2011年度当初予算において、政府は何としてでもこの枠組みを遵守するものと思われる。
3. 2011年度当初予算における基礎的財政収支対象経費については、特別枠要望額に挙げられている項目が2010年度補正予算に前倒しされることなどから71兆円以下に抑制される公算が大きい。国債費についても当初予算編成過程において縮減する公算が大きい。
4. 公債金収入を44.3兆円以下へ抑制するためには5.4兆円程度の税外収入の確保を要するものと思われるが、埋蔵金発掘作業が一筋縄ではいかないことから、税外収入の確保は困難なものとなろう。のため、当初予算の歳出項目にあがっているものの一部を2011年度補正予算に後ろ倒しし、追加公債発行を行うなど、あの手この手を用いて達成されるものと思われ、中期財政フレームは導入1年目から形骸化することとなろう。

学生と先輩との交流会

11月27日(土) 10:25~15:30

@時計台2F国際交流ホール

[内容] 企業ごとのブース形式での交流

◆入退場自由 ◆参加費無料 ◆スーツ**禁止** (先輩方もカジュアルな服装でいらっしゃいます。)

参加企業数なんと**96社**!

一日に、たくさんの企業の話が聞ける!

1対1という形式で、しっかり話が聞ける!

先輩だから、ざっくばらんな話が聞ける!



参加者**全員**に、企業の基本情報や先輩方からのメッセージなどをまとめた**企業BOOK**をプレゼント!



↑ 昨年度の交流会の様子

11月19日(金)、25日(木) 昼休み、物理系校舎1Fロビーにて**事前配布**

事前説明会 ~ 交流会をうまくまわるコツ ~

11月25日(木) 12:15~(30分程度)

@物理系校舎313

[内容] スマイルによる説明、質疑応答

※事前説明会会場にてBOOK配布行います。

賢いブースのまわり方、BOOKの活用術etc...
充実した交流会にするためのポイントをスマイルがレクチャー!



同時開催 講演会 @時計台1F百周年記念ホール

理系のキャリアデザイン

講演会 15:45~16:45

「人材ビジネスの現場から

キャリアデザインを考える」

講演者 小倉 寿雄氏

関西雇用創出機構 執行役員

産業カウンセラー

キャリアコンサルタント



社長になるには?

転職の利点とは? パネルディスカッション 17:00~18:00

※講演会終了次第開始

どんな資格が有利? 「キャリアアップのために何をすべきか」

学士は必要?

海外との違いは?

将来のキャリアの

積み方、

あなたは考えて

いますか?

パネラー

中尾 優氏

特許業務法人有古特許事務所 所長

成宮 明氏

株式会社KRI 社長

西宗 久昭氏

関西雇用創出機構 シニアコンサルタント

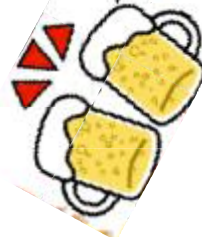
西脇 眞二氏

京都大学大学院工学研究科 教授

森本 教穂氏

株式会社野村総合研究所

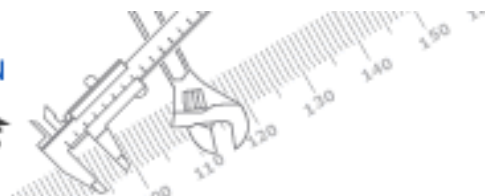
普段は聞けない、先輩方の本音が聞けるチャンス!
18:15~ @時計台2F国際交流ホール
参加費 1000円 (非京機会員は3000円)





Student Formula SAE Competition of JAPAN

全日本学生フォーミュラ大会



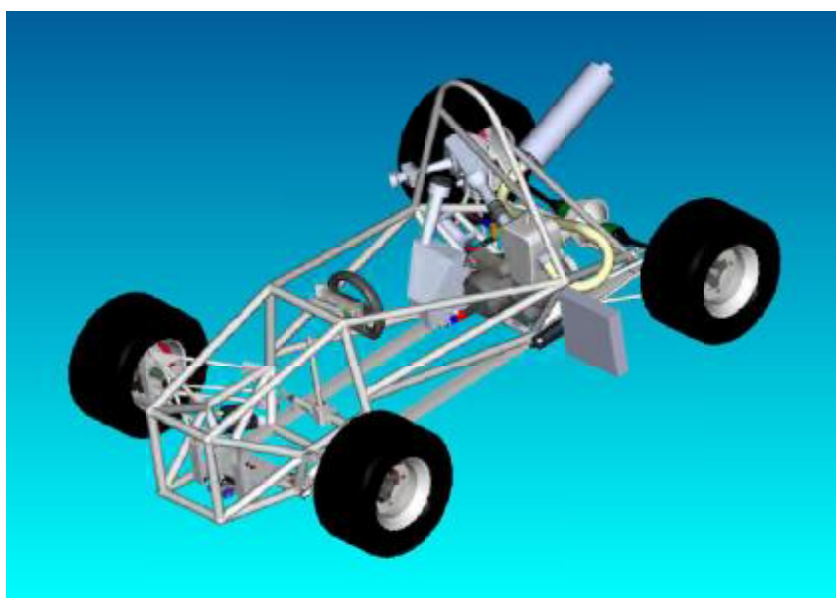
報告

朝晩の冷え込みが一段と厳しく感じられます今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。第8回学生フォーミュラ大会が終了してから早1ヶ月。当チームでは新年度体制への引き継ぎを速やかに済ませ、新年度車両の設計に多くの時間を費やしてまいりました。今回は10月末をもって設計が完了した新年度車両の概用についてお伝えします。

今年度、私達は車両のフルモデルチェンジに挑戦します。新年度車両における一番の変更点はエンジンの変更です。

第8回大会における各区間のタイムを他大学と検討した結果と、ドライバー陣の意見を含めて検討しましたところ、昨年度車両はエンジンの低速トルクが低く、コーナー脱出時に多くのタイムを失っていることが分りました。

これまで私達はYAMAHA/YZF-R6の四気筒エンジンを使用してまいりましたが、このエンジンは高回転型のエンジンとなっており、そのパワーを持て余しているというのが実情でした。



そこで、今年度は思い切って低速でのトルクに優れる単気筒エンジン（YAMAHA / WR450F）へと変更し、低速でのトルクの改善を狙いつつ、燃費でも高得点を狙うことにしました。これによって、例年では半ば諦めていた燃費競技においても、上位を取れるものと期待しております。エンジンの変更には、様々な困難が生じますが、昨年度より検討を重ねてまいりました結果、10月中頃にはエンジン始動に成功するなど、現在のところ順調に開発が進んでおります。エンジンの変更によって、出力は大きく下がることとなりますが、昨今の日本大会におけるコースは、低速コーナーが多く、高速区間が少ないというレイアウトですので、単気筒エンジンの出力でも十分に上位校に迫れるものと考えております。

車両全体としては、今年度はテクニカルディレクターが各パーツの重量から重心位置に至るまで事細かに目標値を設定し、車両全体としてのまとまりをこれまで以上に重視して設計を行いました。また、伝達効率の向上を狙い、これまでのチェーンドライブからギアドライブへの変更を行うなど、新しい技術も積極的に取り入れております。エンジン変更に伴い、車両全体での大幅な設計変更を余議なくされましたが、昨年度のうちから設計構想を練ってきたことで、予定どおり10月中に設計を完了させることが出来ました。これは2カ年計画が順調に進んでいることの表れでもあります。

「2年かけて総合優勝を目指す」という「2カ年計画」の1年目として臨んだ前回大会。十分に走りこんだ車両は耐久走行で2位に輝くも、総合順位は9位と、満足できる結果ではありませんでした。今年度、私達はその悔しさをバネに「2カ年計画」の最終目標である総合優勝を狙いに行きます。チーム発足以来の夢を実現するべく、チーム一同精進してまいりますので、ご声援のほどよろしくお願いします。

